

藤井国土交通事務次官 来賓挨拶

ただいまご紹介をいただきました国土交通事務次官を務めております藤井です。
本日はカーボンニュートラルのシンポジウムにお招きいただき、誠にありがとうございます。

このカーボンニュートラルをテーマとしたシンポジウムは、過去2回ほど、冒頭の挨拶をさせていただいた記憶がございます。それだけ非常に皆さん関心があるテーマということだと思います。特に今回は、先ほど宿利会長からもありましたとおり、いわゆる「空、海、陸」の交通モード横断で、それを全体的に捉えてみようという点で新しい取り組みだと思います。また、この問題についての関心の広がり、取り組みの広がりを反映しているものとも思っております。各分野の取り組みは、この後パネルの中でもご紹介があると思いますので、カーボンニュートラルに関する最近の行政から見た動き・課題等をご紹介することで、挨拶に代えたく思います。

昨年12月、政府でGX実行会議というものが取りまとめをしております。これは今日、基調講演をこの後行ってくる竹内先生も構成員でおられた会議ですが、その中でDX実現に向けた基本方針がまとめられました。この中には様々な施策が盛り込まれていますが、特に大きなものとして、一つは「GX経済移行債」という債券の発行、これによって資金を大きく確保しようという試み、それからもう一つは成長志向型のカーボンプライシング、いわゆる価格付けをすることによってCO2を市場構造の中で減らしていく取り組み、こういったこれまでにない非常に野心的な構想が盛り込まれております。これにつきましては、1月から開かれている国会の中に、「脱炭素成長型経済構造への円滑な移行の推進に関する法律案」、いわゆる「GX推進法案」が、政府全体に関わるので内閣官房が提出をする形で、国会で審議が始まっている状況でございます。今国会での政府提出の法案の中でも、最重要の法案の一つだと思います。

今申し上げた二つの取り組みはご存知の方も多いと思いますが、「GX経済移行債」は額の規模が比較的大規模です。令和4年度の第2次補正予算と、令和5年度の予算を合わせて1.6兆円という規模で発行しようということになっていきます。さらに今後10年間で20兆円の発行を見込む、非常に規模が大きいものです。これをしっかり使っていくことは非常に大事なことであり、特に国土交通省の各分野、中でも交通分野はその代表的なものとして、活用先として手を挙げ、実地でCO2削減の具体化を示していこうと考えているところでございます。

来年度については車の中でも特に商用車、緑ナンバーの車の電動化について、環境省と共同で予算を確保して執行いたします。150億円という、これまでの予算と比べても、ほぼ倍増した額となっております。さらに令和6年度以降は自動車だけでなく各分野でどういことができるか、今秋の予算要求に向けてしっかり弾込めをしていこうと思っているところです。

先ほどの基本方針の中にありました二つ目の柱、カーボンプライシングについては、スケジューリングが明確に示されております。2023年度から、いわゆる企業の自主参加という形での排出権の取引制度を、試行的に開始してみようということです。2026年度にはそれを本格始動させ、2028年度には化石燃料を輸入する、そういった事業者の方に対する賦課金制度を導入し、さらに2033年度からは、発電部門における有償オプションの導入、そういった道筋を描いているところでございます。

これはご存知の方も多いと思いますが、カーボンプライシングに関連して、こういった我が国の取り組みに先行して、国際航空の部門ではICAOという国際機関の中で2024年度以降の制度化が定められています。SAFの導入など航空業界はCO2削減に向けて動いていますが、これは、こういった規制の枠組みが決まり、排出権取引をするという枠組みが決

まってきた中、さあどうしようということで、それを受けた民間事業者の皆様が活発になってきている、一つの表れだと思います。ですから、日本でこういった動きが、先ほど申し上げたようなスケジュールで出てくると、より広い各分野の民間企業の方々の CO2 削減に向けた動きが、非常に活発に始まってくるのではないかと考えております。それを私どももしっかり注視をし、対応していきたいと考えているところです。

こういった CO2 の対策、いわゆるグリーントランスフォーメーション、GX は政府全体の施策の一つの柱ですが、さらに言うとデジタルトランスフォーメーション、DX があります。交通の分野では、自動運転、船の自動運航、全く新しい交通機関でドローン、さらには大阪万博のある意味で最大の見物の一つになるであろう空飛ぶ車、そういった新しい交通機関に DX の応用があるだろうと思っています。DX、GX を組み合わせて、使いやすい、快適で便利な交通機関を作り上げていくことが、これから非常に大事だと思います。

先日愛媛県の松山市へ参りました。松山市内のバスを運行している伊予鉄さんという会社が、日本で初めて、市内の路線バスに電動バスを導入されました。これから広がってくると思いますが、非常に印象的だったことがありますので、最後にご紹介申し上げたいと思います。

私も以前に駐車場のようなところで少し試乗したことがありますが、今回は、実際に伊予鉄さんの「松山市」というターミナル駅から出発する電動バスにしばらく乗せていただきました。非常にスムーズであることが印象として強く残りました。これは一緒に乗られた中村知事も同じことを言っておられましたが、トルクが非常に大きいため、電動化をすることによって非常にスムーズになっています。実は路線バスの世界では、高齢者の方がお客様に多いので、そういった方々が急発進や急停車により転んでしまって怪我をするといったことが、問題になっています。そういうことがなくなる意味で、これはすごく意味があるね、とその場の方々と話したところです。やはり、その後の商業運行を始め、非常に好評だと承っております。

これは一例ですが、CO2 をなくす、それは地球のため、世界のため、将来の人類のために大事なことでありますが、実際に使うものにメリットが実感されると、さらにどんどん進めていこうということになるだろうと改めて思ったところでございます。そういった点で GX と DX の組み合わせも非常に大事だと思いますし、今日ご参加の皆様とも連携をしながら、しっかり交通分野において取組みを進めてまいりたいと思います。

本日 1400 人を超える方々が web も含めて視聴されるということで、大変インパクトの大きいシンポジウムだと思います。今日のシンポジウムが、ご参加の皆様にとりまして、有益かつ実りの多いものになることを心から祈念いたしまして、冒頭のご挨拶といたします。

以上